

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2011 教員の手引き



世界 100 カ国以上の子どもたちといっしょに
教育について考える**授業**を実施してください！

今日世界では、6,900 万人の子どもたちが学校に通えず、その 54% は女の子です。世界中の子どもが教育を受けられることを願って、180 ヶ国の NGO (民間の国際協力団体) や教職員組合が運営するネットワーク「教育のためのグローバル・キャンペーン」(Global Campaign for Education) では、ユネスコとユニセフの後援のもと、2002 年より毎年、「世界中の子どもに教育を」キャンペーンを世界中で行っています。昨年は、日本の小・中学校・高校・大学から 351 校、41,940 人の児童・生徒が、世界では約 1,200 万人がキャンペーンに参加しました。

今年のキャンペーンでは、3 月 8 日の「世界女性の日」の 100 周年にあわせて、「女の子と女性の教育」に焦点をあてます。女性の社会的地位が低いことに加え、途上国の貧困家庭の多くは、女の子より男の子の教育にお金を使うことなどから、教育における男女の平等の達成が阻まれています。学校に通えない子どもたちの現状を知り、世界中の子どもたちの教育を願うキャンペーンにぜひご参加ください。

世界一大きな授業 女の子と女性の教育
実施日：2011 年 4 月 18 日(月) ~ 24 日(日)

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2011

主催：教育協力 NGO ネットワーク(JNNE) <途上国で教育協力を行う NGO 27 団体のネットワーク>

共催：立教大学 ESD 研究センター

実施：「世界中の子どもに教育を」キャンペーン実行委員会

(構成団体: ACE、オックスファム・ジャパン、グッドネーバーズ・ジャパン、シャンティ国際ボランティア会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、プラン・ジャパン、ラオスのこども)

後援：文部科学省、外務省、国際協力機構(JICA)、開発教育協会(DEAR)、動く 動かす、ガールスカウト日本連盟、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議(ESD-J)

このキャンペーンは、財団法人大竹財団の助成を受けて実施しています。

1. 授業の参考例（45分間で、教材を使用する場合）

授業のねらい

世界の教育の現状を知り、女の子や女性が教育を受けることができない原因について考える。

女の子や女性が教育を受けられるようにするための世界の取り組みや教育の重要性を知り、すべての人々が教育を受けられるようにするためにはどうしたらよいか、意見を出し合う。

授業が始まる前に・・・		
教師	子ども	備考
・ポスター教材は、～を切り取って使用する。 を授業日の前に掲示して、子どもに見せておく。		
導入 3分 授業のねらいを確認し、世界一大きな授業について説明する。	授業のねらいを知る。	世界一大きな授業 補足説明 p.4. .
テーマ1 「女の子や女性が教育を受けられないのは、なぜ？」 (ポスター教材：～)		
・世界の教育の現状を知り、 <u>女の子や女性がなぜ教育を受けることができないのか</u> について考える。		
世界の教育の現状 (ポスター教材) 10分 アクティビティ:「世界の教育の現状はどうなっているだろう？」 p.6. 3を参照。 アクティビティ終了後、ポスター教材を示し、日本、アフガニスタン、ニジェールの数字を見ながら、小・中学校に行ける子どもの人数、男女の格差を確認する。	世界の教育の現状を知る。	各国の小学校、中学校の就学率 補足説明 p.4. .
この子たちは何をしているのだろう？ (ポスター教材 ～) 10分 ～の写真について、 <u>この子(たち)は、何をしているのだろう</u> と、問いかけを行い、各写真について、子どもとともに考える。場所はどこか(施設や建物)、子どもの表情・服装・道具などの具体的な状況を聞くようにする。	写真を見ながら、女の子が教育を受けられない現状やその理由について考える。	【写真の説明】 家事労働をする女の子(ブルキナファソ) 【写真の説明】 絨毯織りをする女の子(パキスタン) 【写真の説明】 紛争中に兵士の妻となり、若くして出産した少女(リベリア) 女の子が教育を受けられない理由 補足説明 p.4. .
【テーマ1のポイント】 「世界には学校に行けない子どもたちが6,900万人おり、そのうちの54%は女の子です。 <u>児童労働・負担の大きい家事労働、早婚、女の子に教育は必要ないと多くの人が考えていること</u> などから、女の子に生まれたという理由で教育を受けられないという現状があります。」		
テーマ2 「女の子や女性が教育を受けると、どうなる？日本の私たちたちにできることは何だろう？」 (ポスター教材：～)		
・ <u>女の子や女性が教育を受けることの重要性</u> について考える。 ・国際社会は <u>万人のための教育(EFA: Education for All)</u> や <u>ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)</u> で、2015年までに小学校や中学校における男女格差を解消し、教育における男女平等を達成すること、だれもが文字の読み書きや計算ができるようになることなど、国際的な目標を定めていることを知る。 ・ <u>市民が中心となって活動するNGO(=非政府組織)</u> が、女の子や女性が教育を受けられるようにするためにどのような取り組みを行っているかを知る。		

<p>世界が、日本が、約束したこと「みんなが教育を受けられる世界にしよう」</p> <p>(ポスター教材) 5分</p> <p>万人のための教育(EFA)とミレニアム開発目標(MDGs)は、女の子や女性が教育を受けることができるようにする国際的な約束である旨、説明する。また、 - のような課題を解決し、女の子や女性が教育を受けられるようにするために様々な活動があることを伝える。そして、 の4枚の写真について、<u>どのような活動を行っている様子だろう</u>と問いかけを行い、各活動について説明する。</p>	<p>万人のための教育(EFA)やミレニアム開発目標(MDGs)を知り、NGOも含め、その実現に向けた活動内容を知る。</p>	<p>【写真A】女の子向けの識字教室(アフガニスタン)</p> <p>【写真B】女性への識字教室(ネパール)</p> <p>【写真C】家事労働反対を呼び掛ける街頭劇(ネパール)</p> <p>【写真D】女性へのマイクロ・ファイナンス(小規模金融)(カメルーン) 補足説明 p.5.</p>
<p>子どもたちや親からの声(ポスター教材) 5分</p> <p>女性教員を目指す女子高校生、保健士、乳幼児保育普及のボランティアの母親、女性経営者の父親など、各写真の人物の声を読み、確認しながら、<u>女の子や女性が教育を受けることで、どのように変わったのか</u>を知る。</p>	<p>教育を受けることでの変化について知る。</p>	<p>【ザイナップさん】女性教員研修に参加する女子高校生(アフガニスタン)</p> <p>【ヘムラタさん】職業訓練を受けて保健師として働く女性の後輩(インド)</p> <p>【アヌラダさん】乳幼児保育普及のボランティアをしている母親(インド)</p> <p>【ガンガさん】学校に通い、ビジネスも始めた娘をもつ父親(ネパール)</p> <p>補足説明 p.5.</p>
<p>みんなが動けば世界が変わる！</p> <p>(ポスター教材) 5分</p> <p>これは、<u>どのような活動を行っている様子だろう</u>と問いかけを行い、途上国の女の子たち自身が、自らの状況を変えるために主体的に声を挙げ、行動を起こしていることを伝える。</p>	<p>途上国の女の子自身が活動していることを知る。</p>	<p>【写真説明】</p> <p>昨年のキャンペーンに参加し、教育の重要性を訴える女の子たち(ヨルダン)</p> <p>補足説明 p.6.</p>
<p>僕たち、わたしたちにできることは何だろう？</p> <p>(ポスター教材) 5分</p> <p>- の流れを振り返り、すべての子どもたちが教育を受けられるようにするために、日本の私たちにできることの事例として、写真 A、B、C の様子を紹介する。そして、<u>自分たちができることは何か</u>と問いかけを行う。</p>	<p>自分たちが取り組んでみたいこと、できることを話し合い、発表する。</p>	<p>【写真説明】</p> <p>知る・考える...昨年のキャンペーンに参加した子どもたちから届いたメッセージ</p> <p>伝える...国会議員に対して世界の教育の現状に関する授業を実施する子どもたち</p> <p>行動する...ミレニアム開発目標(MDGs)を実現する活動に参加する子どもたち</p>
<p>【テーマ2のポイント】</p> <p>「女の子や女性が教育を受けることで、女の子や女性自身だけではなく、地域・社会全体が変わります。国際社会は万人のための教育(EFA)とミレニアム開発目標(MDGs)で、<u>すべての女の子と女性が教育を受けられるようにすることを約束</u>しており、この実現に向け、<u>途上国の人びと自身、NGOを含む様々な機関、そして、日本に住む私たち自身が行動</u>を始めています。」</p>		

授業のまとめ:(2分)

これまで、女の子のための教育は後回しにされがちでした。しかし、女の子も男の子も教育を受ける機会が平等にあるようにすることを世界は約束しています。教育を受けることができれば、一人ひとりの可能性を伸ばし、国全体や世界全体に大きな影響を及ぼす力になります。今日、私たちがこの授業で世界の教育の現状を知ったことは、女の子も含む、学校に通えない子どもたちの状況を変える大きな一歩となります。自分にできることからぜひ行動してみてください。これで授業を終わります。

補足情報

授業の流れはあくまでも参考例です。先生ご自身で組み立ててくださってももちろん結構です。お願いしたいのは、ねらいやねらいに沿った二つのテーマ(テーマ 1.「女の子が教育を受けられないのは、なぜ?」、テーマ 2.「女の子や女性が教育を受けると、どうなる?日本の私たちにできることは何だろうか?」)に触れてください。

ワークシートをHPからダウンロード(<http://jnne.org/gce2011/download>)できるようにしていますので、**ポスター教材の補足教材**として、ご自由にお使いください。また、授業後に、子どもの感想や先生のご意見をどうぞお送りください。ホームページや報告書などでご紹介させていただきます。

2. 補足説明

・「世界一大きな授業」とは?

毎年、世界 100 カ国以上で、NGO や教職員組合が中心となり、「教育のためのグローバル・キャンペーン」を行っています。昨年は世界で 1200 万人以上がキャンペーンに参加しました。今年も「世界一大きな授業」として、世界でより多くの人びとが同じ期間に同じテーマの授業を受け、世界中の子どもたちが教育を受けられることを願います。

・女の子が教育を受けられない原因は?

社会的な理解の不足

多くの途上国では、女の子や女性が教育を受けることに対する理解が不足しています。そのため、親や地域社会、そして女の子や女性自身が、教育を受ける意欲を喪失してしまうことがあります。各国の文化や伝統は尊重されるべきものですが、社会的な偏見が女の子や女性から教育を受ける権利を奪うものであってはなりません。

児童労働/負担の大きい家事労働

貧困家庭の子どもは、学費を払えない、家計を助けなければならないという理由から、水汲みや農作業、家族の世話などの負担の大きい家事労働や、農業や繊維産業などの経済的活動に従事させられることがあります。特に、社会的な理解の不足も影響し、多くの家庭が女の子より男の子の教育を優先します。このため、女の子は、強制的に労働させられる場合があり、学校に通うことができません。

早婚/幼児婚

女の子が 16 歳未満で、さらに貧しい農村部では、10 代未満で結婚しています。インド、ネパール、バングラデシュなどの南アジア地域に多く、女の子や女性の教育および就業の機会を阻害していることが指摘されています。また、非常に幼いうちに結婚、妊娠した場合、女性と子どもの両方に健康上、深刻な悪影響を及ぼすことも知られています。

女の子にやさしい教育環境の未整備

子どもたちにとって、学校の校舎や設備など、学びの環境は非常に重要です。特に、女の子や女性にとって、衛生的な学校トイレや安全な通学路などは肝要です。しかし、多くの途上国ではトイレが男女別になっておらず汚れていたり、長い通学路は道路の冠水や野生動物の襲撃、性犯罪などの危険が伴うこともしばしばです。なお、女性教員の存在は、女の子が安心して学ぶ助けとなりますが、女性教員数は不足しているのが現状です。また、国や地域によっては、男女別学でない、親や地域の人びとが学校に行かせたがらないことがあります。教室や校舎、教員の数が足りないために、別学にできません。さらに、中学校が近くにないの、小学校に女の子を行かせるメリットが少ないことも理由の一つとなっています。

・今回教材に掲載している国情報

国名	平均寿命	5歳未満児死亡率 (1000人中)	妊産婦死亡率 (10万人中)	若者(15-24歳)の識字率 (男子、女子)	小学校就学率 (男子、女子)	中学校就学率 (男子、女子)
日本	83歳	4人	6人		100%、100%	101%、102%
アフガニスタン	44歳	257人	1800人	49%、18%	65%、40%	28%、9%
インド	64歳	69人	450人	87%、77%	90%、87%	59%、49%
ネパール	67歳	51人	830人	85%、73%	81%、78%	46%、41%
パキスタン	67歳	89人	320人	80%、60%	73%、53%	92%、88%
ヨルダン	73歳	20人	62人	99%、99%	88%、89%	95%、96%
カメルーン	51歳	131人	1000人	72%、59%		35%、28%
ブルキナファソ	53歳	169人	700人	47%、33%	62%、54%	18%、13%
リベリア	58歳	145人	1200人	68%、76%	32%、30%	

「EFA Global Monitoring Report2010」、「ユニセフ 世界子供白書 2010 特別版」より

* 小学校就学率は純就学率、中学校就学率は総就学率を示す。総就学率とは、一定の教育レベルにおいて、教育を受けるべき年齢の総人口に対し、実際に教育を受けている(年齢にかかわらず)人の割合。それに対し純就学率とは、一定の教育レベルにおいて、教育を受けるべき年齢の人口総数に対し、実際に教育を受けている(その年齢グループに属する)人の割合。「ユネスコ・アジア文化センター:識字用語集」より

国際社会の約束と今後の課題

国際社会は、世界中の人々が教育を受けられることを約束した「万人のための教育(EFA: Education for All)」を定めています。これは、各国政府、援助機関、市民や NGO が協力しながら、2015 年までに世界中の全ての人たちが教育を受けることができる環境を整備しようとする取り組みです。

万人のための教育(EFA: Education for All) 6つの目標

- 目標1. 就学前保育・教育の拡大と改善。
- 目標2. 2015年までに無償で質の高い教育をすべての子どもに保障。
- 目標3. 青年・成人の学習ニーズの充足。
- 目標4. 2015年までに成人識字率を50%改善すること。
- 目標5. 2005年までに初等・中等教育における男女格差を解消し、2015年までに教育における男女平等を達成すること。
- 目標6. 読み書き、計算能力など教育のあらゆる面における質の向上。

なお、EFA は、ミレニアム開発目標(MDGs)の女の子と女性の教育に深く関連する目標 2、3 の達成にも貢献しようとするものです。ミレニアム開発目標(MDGs)とは、2000 年国連総会において約束した世界的な目標であり、貧困問題や教育、医療など分野ごとの具体的な数値目標を定め、2015 年を期限とした実現を目指しています。これらの目標を実現するために、国際社会・NGO は、様々な活動をしています。

ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals) 8つの目標

- 目標1. とてつもない貧困と飢えをなくそう。
- 目標2. みんなが小学校に通えるようにしよう。
- 目標3. ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう。
- 目標4. 子どもの死亡率を下げよう。
- 目標5. 女性が健康な状態で妊娠し、子どもを産めるようにしよう。
- 目標6. HIV/エイズ、マラリア、その他の病気が広がるのを防ごう。
- 目標7. 環境の持続可能性を確保しよう。
- 目標8. 世界の一員として、先進国「も」責任を果たそう。

「STAND UP TAKE ACTION 活動報告書 2010」より

地域社会の啓発活動

女性が教育を受けることの重要性や、教育によって女の子や女性自身、そして地域社会が変わることを人びとに伝えるキャンペーンを行い、差別や偏見をなくすことで、女の子や女性が教育を受けることができるよう働きかけます。児童労働や家事労働、早婚や幼児婚など特定の課題に焦点を当てた啓発キャンペーンを実施することもあります。また、このようなキャンペーンを、地域、地方行政、中央政府など、さまざまなレベルで行うことで、地域での習慣や行政のルール、法律など、女性の教育を阻害する要因を取り除き、改善するような活動をすることもできます。キャンペーンが成功し、近所の女の子たちが学校に行けば、自分の子どもも行かせようとするという間接的な効果もあります。

女の子にやさしい教育環境の整備

通学路の舗装や衛生的で男女に分かれたトイレの整備など、女の子や女性が通いやすく過ごしやすい学校づくりを行うことが重要です。また女性教員を養成し、特に女の子と女性の教育が遅れている地域で効果的に女性教員を配置する取り組みも行われています。学校の整備が間に合わない場合、女の子や女性を対象とした識字教室など、多様な学びの場を設け、女の子や女性が教育を受けることができるように工夫します。なお、啓発活動や教育環境の整備など、すべてに共通していえることですが、子どもたち自身、保護者、教員、学校関係者、その地域のリーダーなど、地域の人びとが協力し合いながら、取り組みを行うことで、学校と地域との信頼関係が強まり、より成果を挙げやすくなることもあります。

女の子や女性のエンパワメントの促進

女の子や女性は教育を受けた後、教員養成研修に参加して教員になったり、母子保健に関する知識を身につけて保健士や地域の保健ボランティアになったり、経営のノウハウを学び融資を受けてお店を開いたり、社会の様々な場面で活躍しています。これらの女の子や女性たちが、自らの状況について意見を伝え、その意見をもとに状況を改善していくことは、ほかの女の子や女性たち、そして社会全体にもインパクトをもたらします。このため、女の子や女性自身の社会参加を支援し、教員養成や保健師養成、小規模金融など、その後の自立に向けた支援を継続すること、つまり、女の子や女性のエンパワメントを促進することも、非常に重要です。

これまでの成果とまだ残る課題

「世界中の子どもに教育を」キャンペーンには、世界中から毎年数百万人もの人々が参加し、様々な成果をあげています。例えば、昨年度のキャンペーンには 100 カ国以上で 1200 万人以上が参加し、子どもや保護者、教師のほか、大臣や政治家も多数参加し、市民の力をあわせた行動が政府への働きかけとつながりました。

また、このキャンペーンは、各国政府の政策にも影響を及ぼしています。先進国では援助額の増加の動きがみられ、途上国では、14 カ国における学費の無料化、女子教育の重視、中途退学した若者・成人向けの教育機会の提供などが政策に反映されています。その結果、1999 年に比べて 3300 万人以上の子どもが学校に通えるようになりました。

日本から 351 校、約 42,000 人が参加した昨年のキャンペーン



武蔵野東小学校



国会議員のための世界一大きな授業

教師役として参加させて頂くにあたり、自分は人に教えるほど何をわかっているのだろう...と不安になりましたが、それが世界の問題について改めて目を向ける良いきっかけとなったと思います。質問に答えられるように学び直す。そしてその問題への思いが強くなる。もっともっと積極的にこの問題を伝えたい! そう感じた体験でした。
(国会議員への授業を行った高校生、志賀アリカさんのコメント)

教育分野における日本の開発援助の「成績表」

Country		Japan	Head of Government	Nobuo Kishida
Overall mark	28/100	Overall Grade	E	
Position in class	19th			
Meeting the internationally recognised aid target	E			
Providing a fair share of the funding needed for Universal Primary Education	F			
Committing to the Fast Track initiative	E			
Focusing on poorest countries where girls most lack access to education	F			
Providing high quality aid to education	B			

「教育のためのグローバル・キャンペーン」(Global Campaign for Education)は、各国の教育援助の評価を成績表の形で発表しています。2010 年の日本の評価は 100 点中 28 点で、「E」評価でした。これは、評価対象となった先進国 22 カ国中、19 番目の成績です。日本の ODA のうち、**基礎教育分野の援助額の割合は 0.7% で、他の先進国の平均の 2.1% と比べて 3 分の 1 です。**一方、世論調査((財)国際協力推進協会、2010)によると、ODA の必要な分野として、47% の人々が教育を挙げており、もっとも関心の高い分野となっています。

3. アクティビティの参考例 「世界の教育の現状はどうなっているだろう？」

ねらい 世界の国々では、教育を受けられない子どもたちがいること、そして特に女の子に多いことを知る。
進め方

- [1] 進行役は参加者の人数が偶数になるように調整する。(参加者が奇数の場合は、進行役も人数に加わる。各グループは男女混合でよい。) 人数が半分になるように 2 つのグループに分け、グループの半分が男子、もう半分が女子であることを伝える。
- [2] それぞれのグループで 1 人ずつ番号を言い、何人いるか確認する。参加者は自分の番号を覚えておく。
- [3] 進行役は今から行なうアクティビティが、アフガニスタンの教育の状況を表していることを伝える。
- [4] ここからは参加者の人数で数が変わります。例:各グループが 20 人ずついる場合
参加者を一度座らせ、男子のグループの 1 番から 13 番まで、女子のグループの 1 番から 8 番まで立ってもらおう。進行役は立っている人数が何を意味するのか問いかける。そしてこの数が、アフガニスタンで小学校に通うことができる生徒の数であることを説明する。「日本で男女 20 名ずつ 40 人が小学校に通えるとしたら、アフガニスタンでは 21 人しか小学校に通うことができません。そのうち男子は 13 人、女子は 8 人です。」
- [5] さらに男子のグループ 1 番から 11 番まではそのまま、12 番、13 番の参加者に座ってもらう。女子は 1 番から 4 番までそのまま、5 番から 8 番まで座ってもらう。進行役は立っている人数が何を意味するのか問いかける。そして立っているのが、アフガニスタンで中学校に通える男子と女子の数であることを説明する。「日本で男女 20 名ずつ 40 人が中学校に通えるとしたら、アフガニスタンでは 15 人しか中学校に通うことができません。そのうち男子は 11 人、女子は 4 人です。」

[6]世界の国々では、教育を受けられない子どもたちがいること、そして、それが特に女の子に多いことを伝え、ポスター教材を見ながら、世界の教育の現状を確認する。

人数表を見ながら、ニジェルについても同様のアクティビティをすることで、国別の比較をすることができます。

人数表

参加者数	日本で小学校に通える生徒数 [4]に使用		日本で中学校に通える生徒数 [5]に使用		アフガニスタンで小学校に通える生徒数 [4]に使用		アフガニスタンで中学校に通える生徒数 [5]に使用		ニジェルで小学校に通える生徒数 [4]に使用		ニジェルで中学校に通える生徒数 [5]に使用	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
40	20	20	20	20	13	8	11	4	10	8	4	2
38	19	19	19	19	12	8	10	4	10	7	3	2
36	18	18	18	18	12	7	10	4	9	7	3	2
34	17	17	17	17	11	7	9	4	9	6	3	2
32	16	16	16	16	10	6	8	3	8	6	3	2
30	15	15	15	15	10	6	8	3	8	6	3	2
28	14	14	14	14	9	6	7	3	7	5	3	2
26	13	13	13	13	8	5	7	3	7	5	2	2
24	12	12	12	12	8	5	6	3	6	5	2	1
22	11	11	11	11	7	4	6	2	6	4	2	1
20	10	10	10	10	7	4	5	2	5	4	2	1

* 20人以下で実施される場合は、HPから人数表をダウンロード(<http://jnne.org/gce2011/download>)してください。

4. 終了後の手続き

- 実施報告書をお送りください。【締切日：4月30日(金)】
写真や感想文は、ホームページや報告書などでご紹介させていただきます。
- ポスター教材や映像教材(PC用DVD)は返却不要です。引き続き、ご活用ください。
- キャンペーン事務局より、2011年6月に参加証(クラスごと)をお送りします。
世界中でのキャンペーン参加人数を報告する報告書(各校1枚)もお送りします。

5. 事後学習～日本と世界のリーダーにメッセージを届けよう～

「世界一大きな授業」で世界の教育の現状を知った次は、学んだことを一人でも多くの人に伝えて、世界を変える行動につなげてみませんか？このキャンペーンでは、すべての子どもが教育を受けられることを願う声を世界中から集め、世界のリーダーたちに届けます。日本では、「世界中の子どもに教育を！」というメッセージが書かれたカードを集めて、首相や世界のリーダーに届けます。これは、教育の支援が足りないことを訴えるメッセージ・カードです。キャンペーンに賛同する人にメッセージ・カードに名前を書いてもらい、キャンペーン事務局にお送りください。



【参加方法】

- 「世界中の子どもに教育を！」と書かれたメッセージ・カードに、賛同してくれる人たちに名前を書いてもらいます。(イニシャルでも可)
メッセージ・カードは、同封のフォームをコピーするか、手作りしてください(形式は自由です)。首相宛のメッセージ・手紙を添えていただくことも可能です。
- 名前を書いた人数の報告とともに、メッセージ・カードをキャンペーン事務局にお送りください。
【締切日：5月6日(金)】結果は、キャンペーンのホームページ上でご報告します。

< お問い合わせ先 >

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン事務局 (担当: 城谷、浜田、奈良崎)
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22-11F プラン・ジャパン内
TEL: 03-5481-0030 FAX: 03-5481-6200 E-mail: education@plan-japan.org
ホームページ: www.jnne.org/gce2011

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン実行委員会の構成団体(NGO)

これらの団体は、市民の立場から途上国における教育支援を行っています。また、国内では、募金受付、事務局訪問受け入れ、講師派遣、教材・資料の貸し出しをはじめ、多彩に機会を設け、みなさんの参加を呼びかけています。

団体	主な活動	学校向け教材
 (特活) ACE(エース) 03-3835-7555 http://acejapan.org	「児童労働」の撤廃と予防に取り組んでいます。チョコやサッカーボールなど身近なモノを通じて児童労働を伝える活動や、インド・ガーナの子どもの支援を行っています。	・「おいしいチョコレートの真実」教材&DVD(販売) ・児童労働写真パネル(貸出) ・サッカーボール縫い体験キット(貸出)
 (特活) オックスファム・ジャパン 03-3834-1556 http://www.oxfam.jp	オックスファムは世界 98 か国で、貧困から立ち上がる人々を支援し、貧困の根本的な解決を目指し活動する国際協力団体です。	・ハンガーバンケット(世界の食料格差を体感するワークショップ)ほか ・写真展リレー(パネル貸出:無料) ・英語で学ぼう 世界の貧困
 (公社) シャンティ国際ボランティア会 03-5360-1233 http://www.sva.or.jp	タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ、アフガニスタン、で、おはなし、絵本出版などの図書館活動と学校建設を中心とした教育・文化支援活動を行っています。	・「絵本を届ける運動」日本の絵本に翻訳文を印刷したシールを貼り付ける活動 ・「リサイクル・ブック・エイド」読まなくなった本の集荷
 (社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 03-6859-6869 http://www.savechildren.or.jp	国連公認の国際 NGO。子どもの権利の実現を目指し、日本を含む世界約 120 か国で、教育や保健栄養など、子どものための支援活動を展開しています。	・世界の子どもの状況や国際協力活動、子どもの権利を知るための教材販売 ・参加型学習プログラムの実施(事務局訪問受け入れ時)
 (公財) プラン・ジャパン 03-5481-0030 http://www.plan-japan.org	途上国 48 か国で、子どもとともに地域開発を進める国際 NGO。途上国の子どもと手紙などで交流するプラン・スポンサーシップが特徴。クラス単位での交流もできます。	・クラス交流「ガオ村チャンネル」 ・子ども用サイト「プラン・スクール」 ・絵本ワークブック「村を動かした男の子」(無料配布) ・世界の国ボックス教材(貸出) ・写真パネル(貸出)
 (特活) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 03-3835-0221 http://www.ftcj.com	1995 年、カナダにて当時 12 歳のクレイグ・キールバーガー少年によって設立された国際協力団体です。子どもが主体的に活動することを大切にしています。つまり、「子どもが子どもを支援する」国際協力を合言葉に活動しています。	・リーダシップトレーニング講座 ・子ども活動応援ウェブサイト ・「はたらく子どもシミュレーション・カードゲームセット」貸出し ・子ども向け書籍 ・「働く子ども紹介パネルセット」貸出し
 (特活) ラオスの子ども 03-3755-1603 http://deknolao.org	ラオスの人々の絵本、紙芝居などの作品作りを応援し、小学校などに届けています。日本では、日本の絵本にラオス語を貼り、ラオスに送るボランティア活動に多くの人々が参加しています。	日本の絵本にラオス語の翻訳を貼ってラオスに送りませんか。貼った人のサイン入り絵本が子どもたちに楽しく読まれます。
 (特活) グッドネーバース・ジャパン 03-5848-4633 http://www.gnjp.org/	子どもは国の未来・国の基礎。子どもがどのような教育を受けるかでその国の未来が変わります。国際 NGO グッドネーバースは、世界中の子ども達が教育を受けられる環境づくりを目指して様々な地域開発を行っています。	・学校向け教材 ・パネル「働く子ども達のはなし」 ・A4～A3 のパネルと働く子どもの紹介文

世界中の子どもに教育を！ Education for All